

行政視察報告書

平成30年5月22日

呉市議会議長 殿

呉市議会議員

上村 臣男

藤原 広

阪井 昌行

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

平成30年5月14日(月), 15日(火), 16日(水)

2. 調査項目

北海道 函館市 共通投票所等投票率向上の取り組みについて
(千歳空港からの飛行欠航により予定時間帯に間に合わず視察中止)

青森県 八戸市 八戸市ポータルミュージアム「はっち」について

3. 参加議員

上村 臣男, 藤原 広, 阪井 昌行

4. 随行者

議会事務局主事 森 美咲

青森県八戸市

■調査項目

八戸市ポータルミュージアム「はっち」について

・調査対応者

まちづくり文化スポーツ部八戸ポータルミュージアム館長 安原 清友 氏
議会事務局庶務課主事 小笠原 直美 氏

・調査期日

平成30年5月15日(火) 午後1時30分～午後3時30分

・八戸市の概要

人口：229,708人

世帯数：107,052世帯 (H30年3月31日現在)

・調査目的

地域活性化に向けた施設整備・取り組みについて

・調査内容

【八戸市からの説明】

安原館長よりパワーポイントを通し、説明して頂く。

<経緯>

八戸の中心市街地は、八戸城を中心に形成された城下町であり、歴史・文化の息づく街として、古くから活況を呈する街並みが発達してきた。しかし、全国的に中心市街地の空洞化や商業機能の低下が懸念される中に於いて、八戸市も例外でなく、中心市街地を八戸の「顔」にふさわしい、人々が集い、賑わいの溢れる空間を再生する為に、(仮称)八戸市中心市街地地域観光交流施設として整備を始める。

H17年5月当初 山車会館及び地域観光交流施設整備を市が提案する

H18年1月 市長が交代となり、「中心市街地の中核施設として、市民交流、観光PR各種イベント開催に対応出来る複合的な施設として健闘を進める」と方向転換する

H21年2月 建築本棟工事 入札
8月 公募により愛称を「はっち」に決定

H22年3月 正式名を八戸ポータルミュージアムとし、条例を制定
12月 工事完成

- H23年2月11日 八戸ポータルミュージアム「はっち」 開館
 3月11日 開園一ヶ月後 東日本大震災発生
- H24年2月11日 来館者 888,888 人達成。(はっち一周年)
 3月 100 万人達成
- H25年5月 200 万人達成 6月第33回東北建築賞「作品賞」受賞
 2013年のグッドデザイン賞を受賞
- H26年5月 来館者 300 万人達成 12月デーリー東北賞受賞
- H27年6月 来館者 400 万人達成
- H28年6月28日 来館者 500 万人達成 (300 万人達成から約1年で400 万人を達成
 一日平均来館者約2,800人)
- H29年7月 来館者 600 万人達成

「はっち」の目的

新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出、観光と地域文化の振興を図る事で、中心拠点と八戸市全体の活性化を目指す。

建物のコンセプト

「はっち」は八角形の中庭を中心に、中心街の特徴である路地、横丁の様な回廊や、広場の様な空間があり、八戸の魅力を再発見しながら各所に於いて観覧や活動、ショッピングや飲食、休憩が楽しめる立体的な街としてつくられている。

展示のコンセプト

八戸の見どころや魅力を解り易く紹介し、各フィールドに誘うポータル（玄関口）としての展示。その展示作品等は市民作家や市民学芸員により制作されており、八戸の資源と共に、誇りとしてつたえている。

事業のコンセプト

「地域の資源を大切に想いながら新しい魅力を作り出すところ」
 八戸には、人、物、食、文化などの財産が豊富にあり、それらを地域の誇りとしてあらためて見つめ直し、時には、新しいものを取り入れながら、育み、新たな魅力を作り出し活性化する事で市民の地域への更なる誇りにつなげて行く。

歳入と歳出

歳入は、施設利用に伴う使用料が収入の半分以上を占める。
 歳出は維持管理経費のほか多様な自主事業の実施経費、イベントの企画運営費及び貸館受付やサポートなどを賄う人件費が主なもの。
 歳入約2,630万円に対して歳出が約2億8,512万円となっており、一般財源から約2億4,094万円を充当しているが、中心市街地及び市全体の活性化を目的とする施設である

事を考えると、施設使用利用を高く設定する事や、事業を減らして事業費を抑制する事を優先にするのではなく、市民や市外からの来館者が利用しやすい環境づくり、新たな興味・関心を喚起して中心街に足を運びたくなる様な事業の実施を第一義に考え、その実現に努めている。

【質疑応答】

●貸館使用料について

団体がイベントを開催する時等は有料で貸出している。例えば通りに面した1階は、はっちひろばは午前で4,620円、午後の利用で6,170円。何も開催されない場合は休憩スペースとなる。

貸館事業を始めたことで何か活動をしたい市民が多くいることが顕在化した。はっちのギャラリーは小さいので気軽に、かつ市中心部で活動ができる。年間来館者数の大半が市民。市民がにぎわっている中に観光客を取り込むことが大事だと考えている。

●「はっち」の更なる発展の為に、館長の思いと企画・計画について

直近でははっち向かいの(仮称)三日町にぎわい拠点「マチニワ」(平成30年度オープン予定)、はっち自体で言えば将来的に長い目で見てどこまでお金をかけるかが課題。にぎわいを創るというはっちの役割を維持しながらいかにお金をかけずに運営するかを考える必要がある。指定管理のメリット・デメリットも考慮しつつ意識していきたい。

●商店街の活性化について

はっち向かいにあるガーデンテラスの2階にヤフー八戸センターが移転したことを契機にIT関連企業が空き店舗に入るようになり、雇用が増加した(13社・約1200人)。はっちを起点とし街が栄えてきた。

●歳入・歳出に対する分析(費用対効果)について

はっちの中だけで収支バランスを取るというよりは、街全体の総合的な部分で考えている。あくまではっちは街のにぎわい創出のための施設であり、そのためにお金をかけている。

●民間の貸館との兼ね合いについて

ヒアリングをしながら金額等でバランスは取っている。当初から特段問題は出ていない。むしろ地元の新聞屋が印刷機を置いていた場所を貸スペースにするなど、はっちで顕在化された活動的な市民団体を取り込み、win-winの関係を築いている。

●「はっち」館内に設置してあるラジオ局について

館内1階のガラス張りのブースから、主にはっちや街の情報を昼に生放送で発信している。館長をはじめとしたはっちスタッフや地元出身タレントが出演。

【呉市での展開の可能性】

「はっち」の目的で掲げてある、新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出、観光と地域文化の振興を図る事で、中心拠点と八戸市全体の活性化を目指す、とある様に、呉市に於いても呉の「顔」とも言うべき呉駅前の再開発に向け、また、呉市の情報発信拠点として市民が集い合える<呉らしさ>・<呉でなければ>と言える様な特化した賑わいと交流に一刻も早い打開策を打ち出し官民連携の中で検討して行く事が重要かと思う。